

研究成果報告会

重点推進研究

特別支援教育における教育課程編成の在り方
に関する研究

教育課程班

平成21年12月14日（月）

1. 背景

- ▶ 特別支援学校では、複数の障害種への対応や一貫した指導体制を踏まえた教育課程編成の工夫等の課題がある。
- ▶ 本研究では、前回（H18年度）の研究を踏まえ、複数の障害種に対応した教育課程編成や、小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫を中心とした実際的研究を進める。

2. 研究目的

- ▶ 特別支援学校における特別支援教育の充実に資することを目的として、複数の障害種に対応した教育課程編成の工夫や幼・小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫について実際的研究を進める

研究期間

平成20年4月～22年3月 (2年間)

3. 研究計画

(平成20年度)

特別支援学校における教育課程編成の現状に関する調査
研究協議会・実地調査の実施

- ①各特別支援学校における複数の障害種に対応した教育課程編成の工夫事項
- ②個別の教育支援計画の実施状況

(平成21年度)

複数の障害種への対応及び(幼)・小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫について検討

- ①複数の障害種への対応及び(幼)・小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫の検討
- ②教育課程編成手順の検討
- ③英国における特別支援教育、教育課程編成の動向調査

4. 研究体制

研究代表者 千田耕基
副研究代表者 原田公人
研究分担者 長沼俊夫、井上昌士、滝川国芳、菊地一文、
猪子秀太郎、大崎博史（Web担当）
所内研究協力者 小松幸恵

研究協力機関

- 1) 岩手県立一関清明支援学校
- 2) 福井県立南越養護学校
- 3) 京都市立北総合支援学校
- 4) 山口県立山口南総合支援学校
- 5) 徳島県立板野養護学校
- 6) 鹿児島県立出水養護学校

研究協力者

- 1) 谷村 佳則（岩手大学教育学部附属特別支援学校）
- 2) 金澤 聡（青森県立八戸第一養護学校）
- 3) 河合 康（上越教育大学）

研究オプザーザー 美濃 亮（文部科学省特別支援教育課）

5. 所内研究グループ

グループ	研究内容
学校 グループ	<ul style="list-style-type: none">・ 研究協力校との共同で教育課程編成の現状と課題を整理し、実践内容を検討する・ 個別の教育支援計画の活用状況及び教育課程評価の現状を整理する
法制 グループ	<ul style="list-style-type: none">・ 特別支援教育体制への移行に至る文教施策の変遷をレビューする・ 教育課程編成の手順について解説する
海外調査 グループ	<ul style="list-style-type: none">・ 英国 Department for children, schools, and familliesを中心に、英国における特別支援教育、教育課程編成の動向・現状について調査する

6. 研究内容（平成20年度）

(1)「教育課程編成上の課題」について所内ワークショップを実施→障害種別の現状及び課題等について整理した



(2)複数の障害種に対応した取り組みの現状を把握するために、実際に取り組んでいる教育委員会及び特別支援学校による研究協議会を開催した



(3)特別支援学校における教育課程編成上の基礎的情報及び指導の実際を得るための実地調査を行った

6-1 実地調査

調査事項

(1) 教育課程編成の手順

学校教育目標・経営方針、重点指導目標（学部・部門別）

(2) 複数の障害種に対応した児童生徒の合同の授業

指導科目（目的、趣旨、意義）、実施上の工夫点

(3) 特別活動の内容

(4) 自立活動

指導内容、目標、評価、個別の指導計画

(5) その他

指導体制（組織、指導時数、教科指導への組み込み）、
研修（専門性の共有）、センター的機能（相談活動等）、
一貫した教育（部門別、学部別のつながり）、他障害種
の児童生徒の受け入れ、特色のある教育、メリットと課題、
人事交流等

6-2 实地调查校 (10校)

学校名	障害種
岩手県立一関清明支援学校	聴覚、病弱、知的
宮城県立気仙沼養護学校	知的
宮城県立山元養護学校	病弱、知的
石川県立総合養護学校	知的、肢体不自由
京都市立北総合支援学校	知的、肢体不自由、病弱、聴覚、視覚
京都市立呉竹総合支援学校	知的、肢体不自由、病弱、聴覚、視覚
山口県立山口南総合支援学校	聴覚、知的、肢体不自由、病弱、視覚
山口県立防府総合支援学校	肢体不自由、知的、病弱、聴覚、視覚
徳島県立板野養護学校	肢体不自由、病弱、知的
鹿児島県立出水養護学校	肢体不自由、知的

6-3 実地調査から得られた課題及びその工夫

(1) 教育課程編成の課題

- ▶ 児童生徒の状況に応じた類型化（準ずる教育、下学年対応、知的対応、自立活動対応など）編成と部門別（視覚、聴覚、知的、肢体、病弱）編成との対応

(2) その工夫

- ▶ 障害種に応じた個別の指導と集団での指導の組み合わせ
- ▶ 障害種を超えて合同授業「体育」や「自立活動」を実施

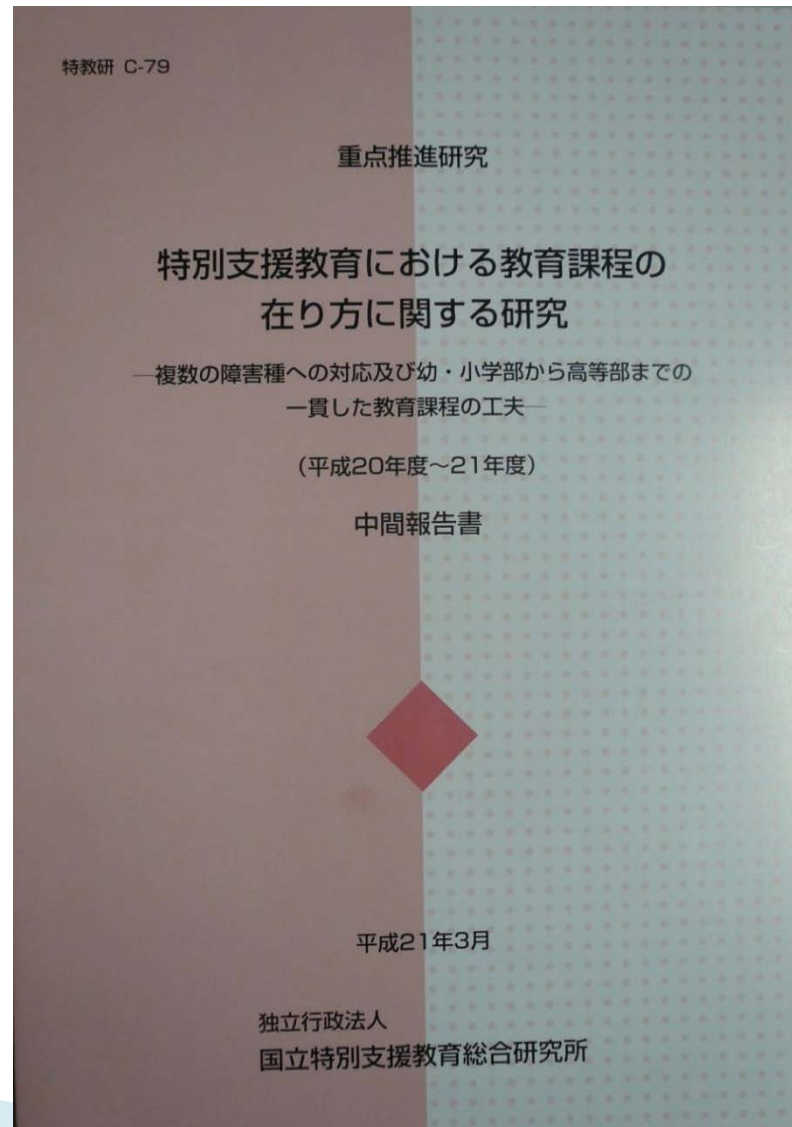
(3) 指導・実践上の課題

- ▶ 人的（教職員数）及び施設設備面等での対応の困難さ
- ▶ 児童生徒の実態に応じた指導（合同授業とグループ別授業）の対応の困難さ
- ▶ 各会議（学部会議、学年会議、障害種別会議、教科担当会議、校務分掌などの各種会議）の増大と職員間のコンセンサスの取り方

(4) その工夫

- ▶ 教科・領域によっては、障害種による縦割りではなく同年齢によるグループ指導
- ▶ 週の中の一日を、専門研究や教材研究日に当て各種会議は設定しない

中間報告書 (平成21年3月刊行)



7. 研究内容(平成21年度)

- 1) 実地調査を実施し、研究協力機関との協働で実践内容（特に複数の障害種に対応した教育課程編成の工夫に関する情報）を集約しまとめる
- 2) 複数の障害種への対応及び(幼稚部)小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫について検討する
- 3) 国内調査及び海外調査を実施する
- 4) 研究協議会（年3回）を開催する
- 5) 研究成果報告書を刊行する

8. 研究計画（平成21年度）

月	内 容
4	研究協力機関、研究協力者訪問
5	研究協力機関、研究協力者訪問
6	第1回研究協議会（6/18）
7	研究協力機関訪問
8	研究協力機関訪問
9	研究協力機関訪問
10	第2回研究協議会 （10/1：講演会、10/2：研究協議会）
11	海外調査（英国）
12	
1	セミナー I（1/26）参加・発表、第3回研究協議会
2	研究成果報告書印刷・完成
3	

9. 研究成果報告書目次（案）

はじめに

研究目的

研究体制

研究計画

I 章 総論（教育課程編成する上で基本的事項）

学校教育目標と重点指導目標との関連、個別の指導計画の作成、実態把握の方法、自立活動、特別活動、総合的な学習の立案、類型別編成の基本的なおさえ、指導体制の考え方、時間配当、学部間連携他

II 章 各論

第1部 平成20年度中間報告書のまとめ

第2部 複数の障害種に関する教育課程（研究協力機関）

学校	タイトル
出水養護学校	知的障害者と肢体不自由者が共に学び合う学校づくり ～授業研究に基づく教育課程の工夫～
南越養護学校	「学部」を基盤として、知的障害、肢体不自由、病気の状態に応じた教育支援のための教育課程
山口南総合支援学校	複数の障害種(聴覚障害・知的障害・病弱)に対応した 合同学習の試み及び専門性維持・向上の取組
一関清明支援学校	4障がいに対応した授業の工夫と専門性向上に資する 授業改善の試み
板野養護学校	自主研修を重視した専門性の向上と合同学習の工夫
京都北総合学校	地域制・総合制の特別支援学校における教育課程編成 の工夫とそれを支える専門性

Ⅲ章 資料

第1部 特別支援教育をめぐる教育課程の諸課題
(河合 康氏)

第2部 海外調査報告
英国における特別支援教育の動向

第3部 学習指導要領解説、関連法規集

おわりに

執筆者一覧

以上で終わります。